



# 日本記者クラブ会報

公益社団法人 日本記者クラブ 〒100-0011 東京都千代田区内幸町2-2-1 日本プレスセンタービル TEL.03-3503-2722 <https://www.jnpc.or.jp/>



## ダブル受賞

ノーベル賞授賞式から一夜明け、授与されたメダルを手にする京都大の北川進特別教授（左）と大阪大の坂口志文特任教授＝2025年12月11日、スウェーデン・ストックホルム　撮影：鈴木　貴也（時事通信社大阪支社）

今年もよろしくお願ひします。

日本記者クラブを思うとき、最近盛んに言われるようになつた「共創」が浮かぶ。いろんな立場の人々が集まつて、ともにつくる。「創」には新たな価値、イノベーション的なニュアンスがあるので、社会一般に使われる意味合いとは違うかもしれない。それでも、同じ響きをもつ「競争」を旨とする報道各社が、社を支える人材を出し合い、ともにつくっていく、支えあうというありようには、「共創」がふさわしいように思える。まあ、「共同」でも「協同」でも「協働」でもいいのだけれど。

記者会見ひとつとつてみても、毎月、30人を超える企画委員が集まり、「こんな人を呼んではどうか」「いまこそ、このテーマを掘り下げるべきだ」と、培つた人脈を惜しみなく使って提案する。取材の合間を縫つて、会見の司会も務める。会員制度のあり方、施設の運営、会報のテーマ、記者クラブ賞の選定、そして記者クラブ全般の運営。すべてにおいて各社の代表が立場を超えて知恵を出し、議論し、協力しあつて結論を出す。支えあう、ともにつくる思いなくして成り立たない日本記者クラブだということを、日々痛感する。

クラブの事務局は、コロナ禍後に細り続けながら「共創」を支え続けている。事務局を束ねる身として力不足を申し訳なく思いつつ、そんな状況だからこそ、一人ひとりを大切にする組織でありたいと願う。

（専務理事　江木慎吾）

「競争」ではなく「共創」ともにつくるクラブを今年も

## 責任ある言論今こそ

理事長 老川 祥一



自民党総裁選立候補者討論会の冒頭、主催者代表としてあいさつする老川祥一理事長  
(2025年9月24日/10階ホール)

お正月恒例の、日本記者クラブ会員予想アンケートの第一問、「2025年12月31日現在のわが国の首相は誰か」に、「高市早苗」さんと正答した方が8人おられたそうです。昨年1月の段階で高市政権の誕生を見できたとは、さすが当クラブ会員の先見力はすごいと、感嘆しました。

私自身は、10月4日の自民党総裁選の、決選投票が行われる寸前まで、小泉進次郎さんが勝つものとばかり大番狂わせとなつた裏には、小泉陣営の戦術の失敗のほか、党員・交友や国会議員たちの心理の読み違いなどの、偶然的要因があつたのでしよう。しかしその根底には、自民党的政治体質そのものの劣化、たとえば日常活動の低下や国民感覚とのズレといった構造的要因が働いていて、それが総裁選の場でサプライズ的に表面化したと思われます。

7月の参院選での自民党惨敗や、参政党など新しい保守政党の進出も、そうした歴史的な政治変動の予兆だったのでしよう。

想定外の出来事が相次いだのは、政治の世界だけではありません。全国各地でクマが市街地にまで出没

予想していました。陣営の幹部にとで聞いたら彼らも同様で、「小泉総裁」が決まつたら直ちに維新の吉村洋文代表が上京して、連立政権合意書の署名を交わす手はずになつたそうです。

### 想定外の出来事が相次ぐ

陣営の戦術の失敗のほか、党員・交友や国会議員たちの心理の読み違いなどの、偶然的要因があつたのでしよう。しかしその根底には、自民党的政治体質そのものの劣化、たとえば日常活動の低下や国民感覚とのズレといった構造的要因が働いていて、それが総裁選の場でサプライズ的に表面化したと思われます。

最近は、新聞・テレビなど既存の報道機関を「オールドメディア」と呼ぶ人が増えました。デジタル時代になって、情報伝達がスピードの面でも量的にも飛躍的に進化しましたから、旧来のメディアが古くみえるのは当然とも言えましょう。

しかし、「オールドメディア」という言葉には、単に歴史的に古いという意味ではなく、時代遅れ、役立たず、といった否定的ニュアンスが込められているようです。

とんでもない思い違いです。情報が洪水のように溢れる今のデジタル社会にこそ、オールドの、新聞・テレビといったまつとうな報道機関が

し、多くの死傷者を出したことも、昨年の大きな驚きでした。これも、地球温暖化の影響でクマの餌になるようなドングリや果実の実りが悪かったことや、農山村の人口減少、耕作放棄地の拡大など、地域社会の構造的変化が背景にあるようです。

政治も社会全体も、大きな変動期に入つてゐるようです。今年も想定外の出来事が続くかもしれません。そうした新しい重要な現象をいち早く、またその意味や問題点を分析して伝えるメディアの役割は、これまでにも増して一段と重くなつたと言えるでしょう。

求められているのです。  
誰もが自由に意見を表明できる、というのは大切なことです。しかし、その意見は良識に基づくものでなければなりません。人を傷つけたりウソであつてはならない。人間は自由であるべきですが、他人の自由や尊厳を侵害することは、自由の破壊にほかなりません。

### オールドメディアの出番

兵庫県知事選を巡つて街頭演説やSNSでデマをまき散らし、県会議員を追いつめて死にいたらしめた男

が名誉毀損容疑で逮捕されるなど、事態は深刻化しています。民主主義は公共圏における健全な言論活動によつて支えられるはずのものです

が、その言論空間がカオス化しつつあるのは由々しいことです。

複数の情報源による裏付け作業を経た信頼できる情報、また健全な良識に基づく責任ある言論が、いまほど求められている時代はないでしよう。変化の激しい今の時代こそ、私たち報道機関の出番です。自信と信念をもつてその使命を果たす決意を、年頭にあたつて改めて確認したいと思います。

(おいかわ・しおいち 読売新聞グループ本社代表取締役会長・主筆・国際担当  
The Japan News 主筆)

## 2026年の会見予想は難しい

準備し、楽しみつつ待つ

新年を迎えると、さてどんな年になるのだろうと思いを巡らす。

な感覺すらある。

今年はどんなことがこの記者クラブを待ち受けているのか。どんな記者会見を開くことになるのか。どうも、

毎年実施している予想アンケートの過去問をながめると、時の移り変わりの速さに改めて驚かされる。2022年のアンケートでは、ナンバーカードの普及率が70%を超えるかを問うていた(正解は「超えない」)。いまや慣れ親しんだ健康保険証が発行されなくなり、マイナ保険証へと移行している。

んなテーマを追うことになるのか。現段階でわかつてているのは、26年は「経済見通しシリーズ」を衣替えした「2026年経済展望—激動の世界と日本を読む」が組まれてていることだ。「経済見通し」より幅広く、深く経済を読もうという狙いが込められている。

26年予想アンケート  
満点目指しそひ回答を

遊び心を大事にしていますので、災害の発生や人の不幸に関する問い合わせを避けています。また、年末までにはつきり答えが出るものではなくてはなりません。回答受付期間の1月中に答えが出てしまう問い合わせも出せません。問題が簡単すぎても、難しすぎても興ざめでしょう。2025年の問題は正解率5割未満の設問が3問しかありませんでしたが、10点満点は1人もいませんでした。満点が出なかつたのは2年連続。ぜひこの状況を打ち破り、企画委員会に集う各社のベテラン記者を悔しがらせてください。

(江木)

▼新年にあたつて	理事長 老川祥一 2	
▼新春随想	尾崎真理子 4・5	
▼今月のクラブゲスト	6	
▼会見リポート	7・10	
セビデ・ファルシ 映画監督／江守正多 東京大学未来ビジョン研究センター 副センター 長・教授／神保謙 慶應義塾大学教授、国 際文化会館常務理事／李赫 駐日韓国大使／ ジヤステイン・ヘイハースト 駐日オース トラリア大使／更田豊志 原子力損害賠償、 廃炉等支援機構（NDF／廃炉総括監／ミンシ ン・ペイ 米クレアモント・マッケナ大学教 授		
▼記者ゼミ	10	
▼ワーキングプレス 高市首相「台湾有事」巡る答弁	11・13	
米国防総省の報道指針	毎日新聞社 朝日新聞社 石原孝 共同通信社 飼手勇介 ガザ 軍同行取材	
▼新・列島報告 荒れたSNS知事選	宮城県 14 河北新報社 大泉大介 濱砂圭子さん マミーズサミット・全国 ネット（マミサミ）理事長 西日本新聞社 黒田加那 ▼リレー工ッセ 15 マイBOOKマイPR 16 ▼写真回廊	

# 虚構の真意を問い合わせ続けて

尾崎 真理子

(文芸評論家、読売新聞社出身)

時代の最前線に立つ作家に、完成した小説について真っ先にインタビューする。それは文芸担当の記者ならば、最も心躍る取材だろう。

作品の価値はもちろん、話題性や

社会的意義というニュース性を見込んで話を聞く。作家もまずは友好的に向き合ってくれるが、準備が足りないといい話は引き出せないし、宣伝に傾く。

書斎まで出かけて苦心談をまとめた、いわゆる「訪問記」は新聞の草創期から続く定番の読み物で、それが続いてきたのは、虚構を通じて人間の真実を書くのが文学であり、どのように発想し、どんな意図が込められているか、作家の言葉に偽りはないと了解されてきたからだろう。だが、みずから築いた虚構について、どこまでその土台にある「本当のこと」を明かすのか。記者はどこまで的確に、作品を報道し得るものなの

か。小説という虚構・フィクションの創作をめぐって真意を問うといふ、なかなか危うい足場に立つて新聞記事を書くわけである。場数を踏むほど怖くなつた。

## ◆ 小説家は時代の本質を体现

念願の文化部に3人目の女性として配属されたのは、バブル景気も終わつた1992年。文壇も出版界もすでに昭和の精彩を失いていたものの、村上春樹の読者は海外でみると、いわゆる「訪問記」は新聞の草創期から続く定番の読み物で、それが続いてきたのは、虚構を通じて人間の真実を書くのが文学であり、どのように発想し、どんな意図が込められてきたのか？」

まずは大江、人気筆頭の瀬戸内寂聴、次のノーベル賞候補と目された村上春樹の動向を追うのが、ずっと優先事項であり続けた。オウム事件以来、日本ほど海外の翻訳作品が豊富に読める国はめずらしく、それが何語に翻訳されても価値を發揮する「世界文学」級の作家が輩出する土壤となつてきていることが、この頃、明らかになりつつあった。

94年には大江健三郎がノーベル文

は、日本文化を再発見する優れた評論も書き、平成を代表する知識人となつていった。

## ◆ 生きた現代史 残すために

「第三の新人」は次々にこの世を去り、続く「内向の世代」の読者は格段に少數だった。それでも戦後の文化を築いてきた重要人物は多く健

在していた。菊池寛の薰陶を受け、ズムではなく、現代人の普遍的な苦悩を描いたとの評価だった。受賞の余韻の中で行われた講演で氏は定義した。

「小説家はある時代を生きる際に、時代をいかにも個人的に生きて、その個人として自分のことを書いて、それでいてしかも、どうも時代そのものを書くものではないか？ そしてついには時代の本質を表現するものではないか？」

まずは大江、人気筆頭の瀬戸内寂聴、次のノーベル賞候補と目された村上春樹の動向を追うのが、ずっと優先事項であり続けた。オウム事件、国際的テロ、2度の大震災等に際して発言し、行動を起こすのもたいていこの三人だった。水村美苗、松浦寿輝、堀江敏幸らの仕事から目が離せなかつた。西欧文学を専門とし、

長い文章を試みるよう背を押したのは、ソウル特派員を務め、ベトナム戦争後に芥川賞作家となつた読売新聞編集委員、日野啓三だった。筆者の未熟な文章について、電話でしばしば苦言が飛んできたが、励まさ

れもした。「原稿用紙で7枚、しっかり論旨のつながる文章の塊りが書けるようになれ。それが一つの単位で、積み上げれば本ができる」

30年ほど前、文化面トップの記事は400字詰めで6枚から7枚分あ



30年ほど前、文化面トップの記事は400字詰めで6枚から7枚分あ

おざき・まりこ▼1959年宮崎県出身 82年読売新聞社入社 静岡支局などを経て 92年から文化部 編集委員 文化部長に就き 2019年に定年退職 20年度から3年間、早稲田大学文化構想学部教授 拙著『大江健三郎の「義』』でも触読解にも最も労力を費やした、大江健三郎に学んだ結論になる。

2014年著書『ひみつの王国評伝 石井桃子』で芸術選奨文部科学大臣賞 新田次郎文学賞 22年『大江健三郎の「義』』で読売文学賞評論・伝記部門を受賞 16年度日本記者クラブ賞著書に『大江健三郎全小説全解』『大江健三郎との共著』詩歌『谷川俊太郎との共著』『人なんて呼ばれて』『池澤夏樹との共著』『一九四五年に生まれて』など

つた。今、それだけの長尺記事に臨む機会が、どれほど与えられているだろう。

### ◆大江健三郎のわずかな動揺

なぜ、その作家は時代の本質を書く個人となつたのか。創作の核心にあるものは……。それを捉えた記事を書きたくても、どれほども果たせなかつた。作家は肝心な部分は明かさない。自分にもよくわからない、無意識のうちだと口ごもる。批評家は本文の中から探り当てることがあるが、文芸記者にとつてはやはり、インタビューほど示唆を得られる有効な手段はない——これが取材にも読解にも最も労力を費やした、大江健三郎に学んだ結論になる。

拙著『大江健三郎の「義』』でも触れたが、氏はどうして世田谷区成城に住まいを定めたのか。また、初期から繰り返し名前に「ギー」と付く作中人物が登場するのはなぜか。これらを問うた時の、わずかに動揺や拒絶を含んだ表情は、傷跡のように長く残つた。踏み込んではならない、創作の柔らかな核心部分に及んでしまつた、ゆえに弾かれたという感覚があつた。それを手掛かりに定年後、じっくり小説群を再検討して初めて、「ギー」とは同じく成城を第二

の故郷として生涯を終えた民俗学者、柳田国男に由来するのではないかとの仮説にたどりついた。

仏、英の文学からの影響を主に論じられてきた大江作品、しかしその根幹には、柳田国男、島崎藤村、さらには平田篤胤の国学の影響もありと見えてきた。『万延元年のフットボール』『同時代ゲーム』から30作目の最後の長編まで、次々にその証左が見つかつた。大江は古今東西の思想を融け合わせながら自身の文學を、現代人の普遍的な苦悩を、創作し続けてきたのだった。

作品が書かれた頃の新聞記事や、

当時を知る人の証言も読解の重要な根拠となる。昨夏、被爆者を取材した約60年前のルポルタージュ『ヒロシマ・ノート』に登場する「中国新聞」の金井利博記者について調べるうち、別の短編に出てくる金井らしき「K」という人物には、同じ広島出身で早世した無頼の流行作家、梶山季之の姿も重ねて書いてあることがわかつた。梶山はその短編の舞台であるハワイで移民として育った母を持ち、ハワイ大学へ何千冊もの蔵書を寄贈していた。金井と梶山を知る同紙の元編集局長、平岡敬・元広島市長の協力を得られなければ、この伏線は掘り出せなかつた。

### ◆インタビューは面白い

いずれは誰かが指摘するだろうと作家も想定していただろう。空想と想像は違う、想像には根拠があると

柳田は述べたが、大江も「根も葉もないと思う空想はひとつもありませんよ!」と息子の書いた小説を抗弁する母親を、晩年の長編『水死』の中に描いた。筆者はここを「自分の小説はすみずみまで現実と現代史に根差している」という宣言だと解釈する。所詮は小説という虚構の中の話だといえばそれまでだが。

文学のみならず、文化にかかわる真実や真価が判明し、定着するまでにはかなり時差がある。学者の知見にも助けられるが、研究は没後に本格化するので、作家本人を知らぬまま大方の論文は書かれる。欧米では

その時差を埋めるように、年長のジャーナリストがさまざまな分野の人や評伝を、一線を退いた後も周辺の調査や考察を重ねて書く。筆者の仕事もそうした一例だろう。

組織を離れると資料集めも取材も大変になるが、インタビューはいくつになつても面白い。同時代を生き、影響を与えてきた作家たちのことを、もうしばらく書いてみようと思う。

(敬称略)

## 今月のゲストの皆さん

ゲスト全員の会見リポートは右のQRコードを開きウェブサイトで読めます。出席欄の「会」は会場、「オ」はオンラインの参加人数です。



## 朱建榮 (Zhu Jianrong) さん 東洋学園大学客員教授



高市早苗首相の台湾有事発言を巡り「中国は観光の自肅など国内経済に影響しない形で日本に経済圧力をかけ、国際社会に中国の主張を訴えるなど反撃している」。未来を見据えた提言に「中国の『平和統一』に支持を表明する、実利外交のプランBを考える」を挙げた。

■ 12・9／出席：会34人、オ58人／「中国で何が起きているのか」<sup>⑩</sup>／司会：高橋哲史委員

## 小島 祥美 さん 東京外国语大学多言語多文化共生センター長・准教授



「外国籍の子どもは就学義務の対象外で、子どもの学びが守られていない」「外国人学校は学校保健安全法の適用がない。国は学校の数や通う子どもの数を把握していない。子どもの命も公衆衛生も守れない環境だ」「普通教育の義務化や『命を守る』制度が必要だ」

■ 12・11／出席：会17人、オ32人／「人口減少時代を生きる」<sup>⑩</sup>／司会：小林伸年委員

## キム エアリス Kim Aris さん アウンサンスーー氏の次男



「クーデター以降、国軍による拘束が続く母からはこの5年間で1度手紙を受け取っただけ。この2年間は弁護団ですら面会できていない」「高齢で病を抱える母は必要な治療を受けていない。解放は困難でも自宅軟禁に戻し健康状態を確認できるようにしてほしい」

■ 12・15／出席：会38人、オ40人／司会：江木慎吾専務理事・事務局長／通訳：吉國ゆりさん

## 五十嵐 中 さん 東京大学大学院特任准教授



薬剤経済学が専門。社会保障制度改革の一環として政府や与党で進むOTC類似薬を含む薬剤費の議論について「セルフメディケーションの推進には賛成だが、いきなりOTCを保険から外すのは反対だ。価格差を縮めるなどやるべきことがある。外すのは最後の手段だ」。

■ 12・16／出席：会13人、オ35人／「人口減少時代を生きる」<sup>⑩</sup>／司会：小林伸年委員

## 井手 英策 さん 慶應義塾大学教授



財政社会学が専門。社会保障や教育を無償化する「ベーシックサービス」の導入を提言した。「経済成長に依存した状況から脱出るべきではないか」「福祉を地域に丸投げにしないためにも財源論は必要だ。コミュニティ機能強化のための地方税の超過課税を提案する」

■ 12・17／出席：会20人、オ45人／「人口減少時代を生きる」<sup>⑩</sup>／司会：小林伸年委員

## 加藤 喜之 さん 立教大学教授



「政治神学的な危機は、米のみならず世界中に広まっている」「極右が台頭した時、宗教を私的領域に追いやり世俗主義を貫徹するのか。むしろ我々自身の伝統、文化、宗教の中にある、他者を包摶する『政治・非・神学』を再発見し、対話することを考えるべきではないか」

■ 12・23／出席：会34人、オ50人／「トランプ2.0」<sup>⑪</sup>／司会：杉田弘毅委員

\*下記のゲストの会見リポートは7~10ページに掲載しています

## セピテ ファルシ Sepideh Farsi さん 映画監督

■ 11・27／出席：会32人、オ9人／司会：出川展恒委員／通訳：池田薰さん

\*同日、会見前に試写会「手に魂を込め、歩いてみれば」を開催／出席：54人

## 江守 正多 さん 東京大学未来ビジョン研究センター副センター長・教授

■ 12・2／出席：会35人、オ47人／「揺らぐ気候変動対策」／司会：滝順一委員

## 神保 謙 さん 慶應義塾大学教授、国際文化会館常務理事

■ 12・3／出席：会42人、オ79人／「存立危機事態」／司会：佐藤千矢子委員

## 李赫 さん 駐日韓国大使

■ 12・5／出席：会65人、オ41人／司会：澤田克己委員

## シャスティン ハイハースト Justin Hayhurst さん 駐日オーストラリア大使

■ 12・8／出席：会36人、オ38人／司会：大内佐紀委員／通訳：西村好美さん

## 更田 豊志 さん 原子力損害賠償・廃炉等支援機構 (NDF) 廃炉総括監

■ 12・10／出席：会35人、オ45人／司会：滝順一委員

## ミンシン ペイ Minxin Pei さん 米クレアモント・マッケナ大学教授

■ 12・15／出席：会22人、オ49人／「中国で何が起きているのか」<sup>⑫</sup>／司会：高橋哲史委員／通訳：陳羚さん



映画監督  
なぜ彼女はいないのか  
11月27日

アトマさんが生き生きと話す姿を目  
にし、私たちも彼女が生きた証人と  
なる。

会話中もドローンや爆撃の音が聞  
こえ、建物が揺れる。ファトマさん  
に疲れが見える日も増えていく。そ  
れでも「彼女の笑顔はいつも変わら  
なかつた」と監督は振り返る。

なぜ笑顔を失わずにいられるの  
か。「生きるためにだと思った」  
と監督は述べた。「抵抗であり、尊  
厳だと。ガザのパレスチナ人である  
ことを誇りに思うのだと、ファトマ  
は笑顔で答えたのです」

犠牲者の多くが女性や子どもであ  
ること、イスラエルが外国メディア  
のガザ入りを禁じていること、世界  
の主要メディアがパレスチナ人の声  
を全く伝えていないと感じたこと。  
この3点に突き動かされ、「ガザで  
何が起きているのか、自分の目で理  
解したかった」と会見で語った監督。

なぜファトマさんが攻撃され、殺さ  
れたのか。イスラエル側に問い合わせ  
せたが、答えはなかつたとい。『こ  
れは人道に反する罪だ』と断じた。

画面いっぱいのファトマさんの笑  
顔や、前を向こうと発せられる言葉  
が印象に残る。なぜ彼女がもうこの  
世にいないのか。考え続けている。

朝日新聞社国際報道部 荒 ちひろ



江守 正多  
「文化戦争」化する気候変動  
東京大学未来ビジョン研究センター  
副センター長 教授  
12月2日

シングタンクは、1990年代から  
気候変動に関する科学や規制を攻撃  
してきた。その積み重ねが具現化し、  
トランプ政権が言いなりになつてい  
る格好だという。

科学に与える影響も大きい。国際  
的な気候科学インフラにおいて米国  
は重要な役割を担つてきたからだ。  
たとえば衛星観測が止まれば、デー  
タの空白が生じる。継続的で国際的  
な観測とデータ蓄積は気候変動の  
解明だけでなく、気候モデルの高度  
化や異常気象の理解にも不可欠で、  
大きな科学的損失が心配される。

気候変動が科学の視点で冷静に議  
論されず、「文化戦争」の構図に取  
り込まれている現状を、会見を通じ  
て痛感した。気候変動は、この10  
0年以上の人間活動の結果であり、  
いま私たちが取る行動は、次世代の  
暮らしや地球の未来を左右する。だ  
からこそ、目先の社会・政治の動き  
に振り回されないよう、その背景を  
見極めながら、確かな科学的根拠に  
基づく報道を続けていきたい。

国連気候変動枠組み条約第30回締約  
国会議(COP30)は、焦点だった  
「化石燃料からの脱却」に関する議  
論が進まずに終わつた。米国の不在  
が、資金拠出の面でも悪影響を及ぼ  
していると江守氏は見る。

トランプ大統領がパリ協定からの  
離脱を宣言したことに伴つて、気候  
関係予算の削減や環境規制の弱体化  
を借りて、フ

産経新聞社社会部科学報道室  
松田 麻希

## 「存立危機事態」

神保 謙

慶應義塾大学教授  
国際文化会館常務理事

12月3日

## 無防備に踏み込んだ外交



972年の国交正常化以降の「四つの政治文書」では、台湾が中國の不可分の一部であると

急速に悪化する日中関係。きつかけは、台湾有事を巡り、高市早苗首相が「戦艦を使って、武力の行使も伴うものであれば、どう考えても存立危機事態になりうるケースだと私は考えます」と国会答弁したことだつた。会見では、安全保障専門家の観点から、なぜここまで日中の解釈が異なるのかなどを読み解いた。

神保氏は、日本では平和安全法制の成立から10年、存立危機事態は台湾有事を念頭に置いているのは半ば当然だったと指摘する。だから、「中國は何を今さら言っているのだろう」と感じてしまつたという。

しかし、この問題は単なる法律論ではないといふのが神保氏の見方だ。1

する中国の立場を、日本は「十分に理解し、尊重する」としている。日本はあいまいさを残したが、中国は台湾問題は内政であり他国の介入は許さないとの根拠とした。こうした外交的な「合意」と、緊張が高まる安全保障や地政学的な現実との間に、絶望的なミスマッチがあると指摘。今回の問題は、外交が、安全保障のリアリティーに無防備に入り込んでしまつたために起きた」とみる。

米政府は、台湾有事に軍事介入するかは明示しない「戦略的あいまいさ」を続けている。そこに高市氏は

歴代政権より踏み越えた発言をし、中国は台湾を巡る内政問題に、日本が軍事介入すると解釈した。

ただ神保氏は、高市氏は意図的なシグナルを送つたわけではないだろうとし、「発言するなら戦略的にやるべきだった」とも述べた。

近年は、日中関係の悪化や邦人拘束が相次いだことで、外交当局者だけでなく、日本の中国研究者やシンクタンク間の知的交流も細つてい る。神保氏は「大幅な機会損失だ。対話の機会があれば、私はいつでも行こうと思っている」と語り、両国

朝日新聞社編集委員 奥寺 淳

する中国の立場を、日本は「十分に理解し、尊重する」としている。日本はあいまいさを残したが、中国は台湾問題は内政であり他国の介入は許さないとの根拠とした。こうした外交的な「合意」と、緊張が高まる安全保障や地政学的な現実との間に、絶望的なミスマッチがあると指摘。今回の問題は、外交が、安全保障のリアリティーに無防備に入り込んでしまつたために起きた」とみる。

李 赫

駐日韓国大使

12月5日

## 韓日協力は「時代の必然」



は、在日韓国大使館への赴任が4度目となる知日派外交官だ。会見では、ロシアと北朝鮮、中国が連携を深めなど戦略環境の変化を念頭に「韓日が手を携えて協力しなければならないことは、時代の要求であり必然だ」と信念を語った。

大使着任後まもなく日本では高市早苗政権が発足し、昨年10月30日に李大統領と高市首相が初会談。革新系と保守系の両首脳だが、日韓関係を発展させる考えで一致した。「日韓はウインウインの関係に発展しようとしている」と安堵の表情をみせた。

日韓が歴史問題を巡り対立を繰り返した過去を踏まえ、李政権の対日外交方針については「過去に執着し

て経済・文化交流などほかの両国関係に影響させるのは良くないとの考え方。国益を最優先にする実用主義が明確に表れている」と説明した。

歴史問題の対立と未来志向の協力をどう両立させるのか。日本側の懸念を反映した率直な質問には、両国に歴史認識の違いがあると認めた上で、「日本政府や政治家が配慮して発言されれば問題は生じない」とけん制した。

「佐渡島の金山」での朝鮮半島出身労働者を含む追悼式に韓国側が2年連続で欠席した問題については、「両国の立場の差がはつきりしている。日本が進んだ案を出してくださることが大事だと思う」と述べるにとどめた。

日韓は共に自由民主主義の価値観を持ち、少子高齢化や低成長経済といった課題でも共通点が多い。経済界や世論には、日本との協力を求めれる声が高まっているという。経済の「共同体」になれる」と期待する。国交正常化60年の年を締めくくり、新たな時代の協力を切り開く覚悟が感じられた。

産経新聞社外信部 石川 有紀

**ジヤステイン・ヘイハースト**  
12月8日

駐日オーストラリア大使

**地域の安定には連携の強化**



台湾有事を巡る高市早苗首相の国会答弁に中国が猛反発し、日中関係は悪化の一途をたどっている。日本政府は対話継続の姿勢を示すが、打開策は見えない。そんな中で、登壇となつたが、オーストラリアのジヤステイン・ヘイハースト駐日大使は「日本は長年、地域と世界の安定に貢献してきた」と語り、一貫して日本外交への理解を示した。

会見で繰り返し強調されたのは、安全保障をはじめ、貿易や投資といったあらゆる分野で連携を深める日豪関係だ。折しも会見前には、日豪の防衛相が防衛当局間の協力を強化する「戦略的防衛調整枠組み」の設置で合意したばかり。日豪間に日本のような安保条約はないものの、近年の日豪関係は同盟国に準じる関係に発展しつつあると印象づけた。

毎日新聞社外信部 飯田 憲

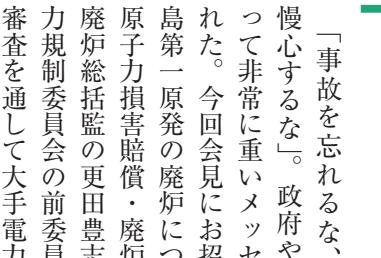


会見で繰り返し強調されたのは、安全保障をはじめ、貿易や投資といったあらゆる分野で連携を深める日豪関係だ。折しも会見前には、日豪の防衛相が防衛当局間の協力を強化する「戦略的防衛調整枠組み」の設置で合意したばかり。日豪間に日本のような安保条約はないものの、近年の日豪関係は同盟国に準じる関係に発展しつつあると印象づけた。

**更田 豊志**  
12月10日

原子力損害賠償・廃炉等支援機構(NDF)  
廃炉総括監

**事故から学び、慢心せず**



実際、「海洋強国」を掲げる中国の威圧的な行動は、日本に限らず豪州にとつても脅威だ。ヘイハースト氏は自衛隊機への中国軍のレーダー照射について懸念を示した上で、「日本との関係を強化することはインド太平洋地域の安定につながる」と明言。台湾有事が起きた際の豪州の対応を問われても「我々の立場は米国などの同盟国との協力で地域の安定を守り、紛争を抑止することを目指す日本と同様だ」と述べた。

インド太平洋地域で軍の往来が増えれば、「偶発的な衝突のリスク」は高まる。だからこそ両国は地域の緊張を緩和する不斷の努力が欠かせない。「必要なのはルールと国際法を守ることだ」。終始冷静な語り口ながらも危機感をにじませた。

またヘイハースト氏は、日豪共通の同盟国である米国の安全保障政策にも言及した。頼りとするトランプ米政権の政策に不確実性が高まれば、地政学上のリスクに直結する。国際情勢が複雑化する中、平和国家の理念を守り、安保の裾野をどう広げていくのか。日本に突きつけられた課題を痛感する会見となつた。

更田氏によれば原子力はこれまで失敗を繰り返してきたという。これまで失敗を繰り返してきました。スリーマイル島やチエルノブリ原発事故などで幾度も「学ぶ」機会があつたにもかかわらず、「原子炉の型が違うため日本では事故は起きない」と「慢心してしまい学ばなかつた。事故に震撼し各種対策をとった欧州などとは対照的に日本は過酷事故対策を自主的取り組みとしてしまい、福島第一の事故で十分な緩和策が取れず被害が拡大、福島県ではまだ影響が続いているわけで同じ過ちを繰り返すわけにはいかない。

すべての原子力関係者が自覚する必要があるが、中でも東京電力は福島第一の廃炉作業をしながら、まさに今、新潟県の柏崎刈羽原発の再稼働を目指しているわけで(すでに新潟県は再稼働に同意)、事故に学び続けるというメッセージを重く受け止めなければならないだろう。柏崎刈羽の再稼働の審査では特別に東電の適格性が検討され、現場では緊急時の訓練も繰り返されている。しかし更田氏は、これだけやつたんだから大丈夫というような慢心が一番怖く、事故は起きるものとして日々取り組んでいくことが重要という。以上のことは規制当局にも当てはまる。関係者に慢心がないかどうか、メディアとしても現場取材などを通じて引き続きしっかりとチェックしていきたいと思う。

NHK解説委員 水野 倫之



高市首相「台湾有事」巡る答弁

飼手 勇介（毎日新聞社政治部）

## 支持率落ちず 混乱を抑制

### 党内基盤の弱さは露呈

昨年10月の政権発足以来、高い内閣支持率の追い風を受ける高市早苗

政権だが、政権内の高揚感を一気に冷ましたのが、首相の「台湾有事」を巡る答弁だった。日中関係を急速に冷え込ませたこの一件は、首相の「強み」と「弱み」を同時に浮き彫りとしたといえる。

昨年11月の首相答弁を受け、中国は日本への渡航自粛の要請や留学に対する注意喚起など矢継ぎ早に対抗措置を打ち出した。中国側の激しい反発に対する首相官邸内の危機感は高く、首相周辺からも「アーサース（希土類）の輸出規制まで言つてこなければいいが」と異なる事態のエスカレーションを懸念する声が上がった。

混乱の抑制に効果を發揮したのは、高い内閣支持率だった。中国から訪日客の減少など影響が表面化し始めた後も、報道各社の世論調査で内閣支持率は高水準を維持した。毎日新聞の11、12月世論調査でも支

持率は、政権発足直後の10月調査とほぼ横ばいだった。

日本の経済活動に影響が出始めれば支持率に直結しかねないと観測があつただけに、首相周辺は「これだけ中国の反発を受けても支持率が落ちなかつたのは大きい」と胸をなで下ろした。高止まりする支持率に注目した官邸幹部は、高市政権の看板政策の一つである防衛装備品の輸出を救難や輸送などに限定する「5類型」の撤廃について、「これなら強気にいける」と自信を深めた。

### 手のひら返す支持議員も

同時にこの騒動は、政権の弱点も顕在化させた。中国による日本産水産物の輸入規制など経済への懸念が広がると、自民党内から厳しい批判の声が噴出した。昨秋の総裁選で他陣営を支援した議員だけでなく、首相を支持した議員でさえも「これでもう政権は終わりだ」とあつさりと手のひらを返した。

首相の党内基盤の弱さは以前からの課題で、2024年の総裁選では出馬に必要な20人の推薦人集めにも苦労するほどだった。昨秋の総裁選でも1回目投票の議員票は小泉進次郎氏、林芳正氏に次ぐ3位。ひとたび政権が苦境に立たされると一気に党内から逆風が吹くという不安定さを露呈したといえる。

### 「早苗スタイル」を模索中

人付き合いが苦手と自認する首相は、昨秋の総裁選の出馬会見で自身の変化を問われて「ちょっとは努力した。苦手な飲み会を私にしては結構やつたかなと思う」と語った。だが、首相就任後はほぼ党内外との夜

会食の予定は入れずに午後7～8時台には帰宅するスタイルを貫いている。首相周辺は「首相は夜にはやはり政策や国会答弁の勉強をしたい気でも1回目投票の議員票は小泉進次郎氏、林芳正氏に次ぐ3位。ひとたび政権が苦境に立たされると一気に党内から逆風が吹くという不安定さを露呈したといえる。

昨年12月には党との連携の希薄さが懸念される場面もあった。衆院議員定数削減法案の臨時国会での成立見送りを確認した高市首相（党総裁）と日本維新の会の吉村洋文代表との党首会談だ。党総裁としての会談であれば、与野党間の調整役を担う幹事長など党役員が同席するのが通常だが、首相側の同席者は木原稔官房長官ら正副官房長官3人の官邸メンバーだけだった。



臨時国会の閉会を受け、記者会見で質問に答える高市早苗首相（2025年12月17日／首相官邸／毎日新聞社提供）

1月召集の通常国会では、政権の顔といえる当初予算の審議に加え、「高市カラーレー」の強い法案の審議が目白押しとなる。与野党対決モードが高まる中で、「仕事師」と評される首相が結果を出し続け、国民からの支持を維持していけるのか。通常国会が政権継続に向けた重要な試金石となりそうだ。

かいて・ゆうすけ▼2007年入社  
たま支局を経て12年から政治部  
19年から再び政治部  
17年から

ガザ 軍同行取材

石原 孝(朝日新聞社エルサレム支局長)

## 住人1人の姿も見えず

### 広がる廃墟 ドローンの音



2年以上に及ぶ戦闘の影響で、パレスチナ自治区ガザ市近郊の街は廃墟となった。住民の姿も確認できなかった(2025年11月12日/筆者撮影/朝日新聞社提供)

私は新しい任地に異動する時、「取材してみたいこと」を事前に書き出している。エルサレム赴任時に最初にリストに書いたのは、「パレスチナ自治区ガザ内部での取材」だった。

約2年前に始まつたイスラエルとイスラム組織ハマスによる戦闘では、ガザで7万人以上の人人が亡くなつた。だが、イスラエルはこの間、外国メディアの記者のガザ入域について、軍の同行取材を除いて認めていなかつた。

「取材前日緊張で寝つけず

「危険性が高いから」という説明だつたが、自由に取材されて戦闘の負の側面に注目が集まるのを懸念しているとの見方も根強かつた。

昨年10月10日の停戦発効を受け、軍は一部メディアの同行取材を認めた。私も11月12日、フランスやイタリアのテレビ局など約10社とともに、最大都市ガザ市近郊にあるシエジャイヤ地区周辺の取材を認められた。

戦闘の一方の当事者に同行する形での取材に、否定的な意見もあるかもしれない。ただ、戦闘開始以降、ガザ在住の通信員らが取材を担つてきたなか、記者が初めて現地に入り、ガザ内部の状況をこの目で見て、読者に伝える意義は大きいと考えた。

私は新しく任地に異動する時、「取材してみたいこと」を事前に書き出している。エルサレム赴任時に最初にリストに書いたのは、「パレスチナ自治区ガザ内部での取材」だった。

約2年前に始まつたイスラエルとイスラム組織ハマスによる戦闘では、ガザで7万人以上の人人が亡くなつた。だが、イスラエルはこの間、外国メディアの記者のガザ入域について、軍の同行取材を除いて認めていなかつた。

私はいた場所からは1人の住民も見えない。ぽつんと置かれた椅子や屋上に掲げられたパレスチナの旗が、人間がこの場所で暮らしていた痕跡をうかがえる数少ないものだつた。私の頭上には、監視用のドローンが飛行する「ブー」という音が常に響いていた。

取材を終えてイスラエル側に戻ると、いつものように飲食店で談笑する人々の姿があつた。直前まで見ていた光景との大きなギャップに、戸惑いを覚えた。

ガザ全域では、約80万人とも言われる住民たちが今もテントなどで避難生活を続けている。停戦発効後もイスラエル軍の攻撃は散発的に続いた。12月中旬時点では400人近い人が死亡した。

ガザ中部スセイラトでテント生活を続けるハッサン・イスマエルさん(31)は、朝日新聞の現地スタッフの

とは言え、取材前日は緊張からか深夜まで寝つけなかつた。

当日、防弾チョッキとヘルメットを着用し、イスラエル側から軍の車両でガザに入った。でこぼこの道を進むと、山積みになつたがれきが見えてくる。15分ほどして車を降りて高台に向かうと、「廃墟」という表現しかできないような、破壊された街並みが広がつていた。

私がいた場所からは1人の住民も見えない。ぽつんと置かれた椅子や屋上に掲げられたパレスチナの旗が、人間がこの場所で暮らしていた痕跡をうかがえる数少ないものだつた。私の頭上には、監視用のドローンが飛行する「ブー」という音が常に響いていた。

取材を終えてイスラエル側に戻ると、いつものように飲食店で談笑する人々の姿があつた。直前まで見ていた光景との大きなギャップに、戸惑いを覚えた。

ガザ全域では、約80万人とも言われる住民たちが今もテントなどで避難生活を続けている。停戦発効後もイスラエル軍の攻撃は散発的に続いた。12月中旬時点では400人近い人が死亡した。

ガザ中部スセイラトでテント生活を続けるハッサン・イスマエルさん(31)は、朝日新聞の現地スタッフの

取材に、「停戦後、私たちが暮らしていた避難民キャンプの近くも攻撃され、別の場所への避難を2回余儀なくされた。戦争はまだ続いている。家族が全員無事なのが唯一の救いだ」とこぼした。

### 「今日も何とか生きている」

トランプ米大統領が主導した和平計画に基づき、イスラエルや米国などは、停戦の維持やハマスの武装解除などについて協議しているが、険しい道のりが予想される。

日本の私たちに何ができるか――。この重い問いを日々、突きつけられながら取材を続けている。この間もガザで自宅を破壊され、家族や親戚を失つた人々の苦境が続いていることを見過ごしてはならないと思う。

いしはら・たかし▼2005年入社  
フリカやインドでの駐在を経て  
月から現職  
南ア  
25年9

米国防総省の報道指針 渕野 新一（共同通信社ワシントン支局長）

渕野  
新一

（共同通信社ワシントン支局長）

## 主要メディア署名拒否

### 「事前検閲」と一斉反発

「まさか米国で…」。昨年9月に届いたメールに我が目を疑つた。

「戦争省（注・国防総省）の情報は、非機密情報であつても公開に先立ち、適切な担当官による承認を得なければならぬ」

為は、憲法修正第1条（注・言論の自由）で保護された活動とは見なさない」などの条項が残つていた。

#### 【記者と話すことは犯罪】

実はこのとき一部メディアが署名に応じるのではないかと疑つたのだが、ペンタゴン記者会は「省内の全

に応じるのではなく、対立は長期間化しそうだ。個人的に懸念していたのは、主要メディアの対応が割れるシナリオだった。もし彼らが皆、署名に応じたら、残念ながら外国メディアの立場で拒否し続ける選択肢があつたとは思えない。だが保守系のウォールス

トリート・ジャーナル紙やFOXニュースなど一部メディアが署名に応じて各社の対応が割れた場合、どうするか。これは難しい問題だつた。

#### 記者会の団結「誇りに思う」

実際、署名拒否の代償は大きく、取材に支障が出ている。これまでのようく内取材ができず、記者会見やブリーフィングにも参加できない。それでも主要メディアは精力的に報道を続けている。省内でもヘグセス氏は極めて不人気で、批判者が多い証拠だろう。

ある米メディアの記者は現状について「悲しいことだが、記者会が団結できたことを本当に誇りに思う」と述べたが、全く同感である。ニューヨーク・タイムズ紙は12月4日、記者の憲法上の権利を侵害しているとして国防総省を提訴した。やはり言論の自由はその国のメディアがつても維持していかなければならぬ。圧力や脅しに屈せず、主要メディアが結束して闘い続けることを願うばかりである。微力だが、足並みをそろえて応援したい。

記者ではなく職員に対し事前承認を求める内容に変更されていた。それでも依然「職員に犯罪行為（注・無許可の情報公開）をそそのかす行

入りを禁止した。

記者のエスコートなしに記者の立ち入りを禁止した。

記者ではなく職員に対し事前承認を求める内容に変更されていた。それでも依然「職員に犯罪行為（注・無許可の情報公開）をそそのかす行



米国防総省内で退去作業を進める報道関係者  
(2025年10月15日/共同通信社提供)

ふちの・しんいち 1993年入社  
島鹿児島那覇の各支局外信部  
ナイロビジャカルタワシントンの各支局などを経て 2025年4月から現職

正直に告白すれば、ここまで荒れるとも競るとも思っていなかつた。2025年10月26日に投開票が行われた宮城県知事選のことだ。選挙戦は、6選を目指す現職の村井嘉浩氏(65)に、元自民党参院議員の和田政宗氏(51)、元県議の遊佐美由紀氏(62)ら無所属の新人4人が挑んだ。大方の見立てでは「村井氏に対する多選批判や独善的な政治姿勢への不満は一定程度あるだろうが、負けるまでではないだろう」だつた。

ところが、和田氏が参政党と政策協定を結び、構図が「村井氏VS.

正直に告白すれば、ここまで荒れるとも競るとも思っていなかつた。2025年10月26日に投開票が行われた宮城県知事選のことだ。選挙戦は、6選を目指す現職の村井嘉浩氏(65)に、元自民党参院議員の和田政宗氏(51)、元県議の遊

佐美由紀氏(62)ら無所属の新人4人が挑んだ。大方の見立てでは「村井氏に対する多選批判や独善的な政治姿勢への不満は一定程度あるだろうが、負けるまでではないだろう」だつた。

ところが、和田氏が参政党と政策協定を結び、構図が「村井氏VS.

正直に告白すれば、ここまで荒れるとも競るとも思っていなかつた。2025年10月26日に投開票が行われた宮城県知事選のことだ。選挙戦は、6選を目指す現職の村井嘉浩氏(65)に、元自民党参院議員の和田政宗氏(51)、元県議の遊

佐美由紀氏(62)ら無所属の新人4人が挑んだ。大方の見立てでは「村井氏に対する多選批判や独善的な政治姿勢への不満は一定程度あるだろうが、負けるまでではないだろう」だつた。

ところが、和田氏が参政党と政策協定を結び、構図が「村井氏VS.

正直に告白すれば、ここまで荒れるとも競るとも思っていなかつた。2025年10月26日に投開票が行われた宮城県知事選のことだ。選挙戦は、6選を目指す現職の村井嘉浩氏(65)に、元自民党参院議員の和田政宗氏(51)、元県議の遊

新・列島報告② 宮城県  
荒れたSNS知事選

## 虚報、中傷、脅迫が拡散 「かほQ」で判断材料提供

大泉 大介  
(河北新報社編集部長)



SNSに広がる言説の信ぴょう性を点検した  
「かほQチェック」の記事(河北新報社提供)

こうした事態に河北新報は、ファクトチェック(FC)「的」な発信を試みた。具体的には「かほQチェック」と名付けたワッペン記事で、「河北が世の中のクエスチョンをチェックする」に由来する。「的」としたのは、かほQは「誤り」や「正確」といったレーティング(判定)をしておらず、認定NPO法人ファクトチェックインシアティブの認証も受けていないからだ。FCの厳格さより、読者にタイムリーに判断材料を届けることに力点を置いた。

選挙戦の終盤、「争点の『水道みやぎ』経過と現状」(10月19日付)『土葬墓地』検討撤回の経緯つて?」(21日付)『県はメガソーラー大歓迎』は本当か?」(23日付)といつた見出しのかほQを、立て続けに6本(オンラインはまとめを含め7本)を掲載した。

こうした報道の背景には、24年11月の兵庫県知事選の教訓があつた。この時もSNSで真偽不明の情報が飛び交つた。ただ、神戸新聞社など報道各社は公正な選挙報道を意識するあまり、「攻めの対応ができなかつた」と聞いた。そうした同志の「悔恨」と、「偽・誤情報で民意がゆが

められてはいけない」との判断から、かほQに取り組んだ。

こうした事態に河北新報は、ファクトチェック(FC)「的」な発信を試みた。具体的には「かほQチェック」と名付けたワッペン記事で、「河北が世の中のクエスチョンをチェックする」に由来する。「的」としたのは、かほQは「誤り」や「正確」といったレーティング(判定)をしておらず、認定NPO法人ファクトチェックインシアティブの認証も受けていないからだ。FCの厳格さより、読者にタイムリーに判断材料を届けることに力点を置いた。

選挙後、Xには「河北のFCがなかつたら、兵庫の二の舞いだつた」といった投稿があった。一方で、かほQが村井氏を利したのではないかとの批判もある。現時点では、読者は、報道の本義と思っている。

### 投稿の44%は関東から

河北新報の分析では、知事選期間中の関連投稿の44%は関東からで、地元・宮城の2倍超だった。投稿者の41%は参政党公式アカウントのファンワードだった。

首長選は本来、自治のリーダーを決めるものだ。「部外者無用」と感じるの間違いだろうが、地域に必ずしも縁がない人の、しかも時に真偽不明で、なおかつ粗暴な言説によって自治が脅かされるのは、やはり好ましくない。「SNS選挙」は、地域に寄つて立つ地方紙が最も踏ん張らなければならぬテーマになつた。ノウハウを共有し、この厄介な熱狂に手を携えて立ち向かいたい。

おおいづみ・だいすけ 1995年入社  
報道部 防災・教育室 営業部などを  
経て 2025年4月から現職

私が会った人の  
あの人

濱砂圭子さん ミースサミット・全国ネット(マミサミ)理事長

## 見えない「声」を代弁

黒田 加那(西日本新聞社)

「今のが当たり前」は私たちが作つたのよ!」初めて会った時、開口一番の言葉と色鮮やかなスカラフが印象的だった。濱砂さんは、1993年にママ仲間と地域密着型の子育て情報誌を発刊。当時は同様の情報誌が、全国で続々と産声を上げていた。彼女の声がけで30年前にできた編集者同士のネットワークが「マミサミ」だ。催しに、今では「娘のような友人」と呼ばれている。

### 壁はみんなで乗り越える

ワーキングマザーの大先輩から聞く3年前の話は衝撃的だ。例えば福岡市・天神のトイレ事情。デパートなど商業施設のトイレ入り口に設置されたベビーベッドに子を放置しなければ、用は足せなかつた。出かける日は水も飲まない母親もいたと聞き、過酷さが目に浮かんだ。その後誌上でキャンペ

ーンを張り、徐々に環境は改善。今では個室に乳児用椅子がある風景は珍しくない。

「女のわがままたい」。濱砂さんは改善を訴える中で、何度もやゆされた。働く母親への風当たりが強い時代、幼い息子に嫌がらせの矛先が向いたこともあった。それでも諦めないパワフルさの半面、本人は「自分の力は高が知れている」と謙虚だ。壁はみんなで越える。マミサミの連帯が、世の中を変えた原動力だつた。

それにしても、なぜ本紙が先に連れトイレの問題を報じなかつたのか。ふとつぶやけば、ぴしやりと言われた。「母親が声を上げても、新聞が聞かなかつただけ」。ドキリとした瞬間、新人時代に受けた教えを思い出した。「記者は飲み屋に通え」。多様な人が集まり、社会の現状や問題が見えるという。私も行きつけの店を作つた。そこでこそ出会えた人や情報もあつた。でも平日夜の店に



濱砂圭子さん(2025年10月、福岡市内、筆者撮影)

### 背中を思い、ペンを取る

入社して以降、メディアを取り巻く状況は厳しさを増す。同業者を除けば、新聞を購読する知人はほぼいない。ネット上では「オールドメディア」と記事も見ずにやゆされ、胸が締め付けられる。必死に書いた記事は本当に届いているのか。社内外で業界から去る者を多く見送った。私自身、明るい展望は持てない。

それでも、まだ諦められない。30年前の母親たちが壁を前にくじけていたら、現代で2児を育てる私の享受している環境はなかつた。傷を負いながらも、仲間とともに歩み続けた姿。名もなき女性たちが、私に活を入れる。いつか私も胸を張つて言いたい。少しでも良くなつた社会を、次世代に引き継いだのだと。濱砂さんの背中を思い、今日もペンを取る。

(くろだ・かな 2015年入社  
賀総局 クロスマedia報道部など  
を経て 現在 報道センター遊軍)

次号は黒田さんが新聞労連の九地連青年女性部の常任委で共に活動していた熊川果穂さん(熊本日日新聞社)にバトンが渡ります。

## 『経済で読み解く昭和史』

岡田 晃(テレビ東京出身)

## 「昭和100年」に見る日本の底力

昭和という激動の時代。先人たちは戦争や度重なる経済危機を乗り越え、今日の日本経済を作り上げてきた。その原動力となつたのは日本人の不屈の精神、日本企業の技術力とあくなき挑戦であり、これこそが「日本の底力」だ。筆者が日経に入社してから早50年余り、「昭和100年」の約半分だ。本書はその間の取材経験も交えつつ、昭和経済の変遷を独自の視点で丹念に追い、「昭和の教訓」を探つた。本書が、令和の日本経済復活の一助になれば幸いである。

PHP研究所  
1,210円

戦間もない時代から現代まで、社会を動かした調査報道(キヤンペーン報道を含む)を網羅する狙いで著した。「そのとき記者はどう動いていたか」が記述の中心であり、読み物としても十分楽しめると思う。

旬報社  
2,530円

日本人のダブル受賞もあり、ノーベル賞報道は大変な盛り上がりだった。ノーベル賞だけは依然、別格扱いのようだ。

そのノーベル賞、かつては賞金額でも群を抜いていたのだが、21世紀に入り、科学技術分野で設され、今回のノーベル賞の約1億8千万円を軽くしのぐものも少なくない。

トップは、2012年にグーグルの創設者らが始めたプレーカスルー賞で、賞金額は破格の300万ドル(約4億5000万円)。ベトナムの財閥によって21年に始まつたヴィン・フューチャー賞もほぼ同額だ。台湾で14年にスタートしたタン賞は約150万ドル(約2億3千万円)で、これらに続く。

## たかが賞金 されど賞金

●

## 第580回会員資格委員会

(12・12 大会議室)

2026年予想アンケート問題10

トップは、2012年にグーグルの創設者らが始めたプレーカスルー賞で、賞金額は破格の300万ドル(約4億5000万円)。ベトナムの財閥によって21年に始まつたヴィン・フューチャー賞もほぼ同額だ。台湾で14年にスタートしたタン賞は約150万ドル(約2億3千万円)で、これらに続く。

ともに4年に始まつた香港のシヨウ賞、フィンランドのミレニアム技術賞などノーベル賞とほぼ同額の賞もある。これらのいずれにも日本人受賞者がいる。

ノーベル賞も創設時、当時の教科による貢献に対する賞賛をたたえることは、後進への激励にもなるだろう。対象となる科学技術の分野はさまざま、成果も評価も多様だらうから、賞金額はともかく、賞にも多様性がある。メディアにも、そんな視点が必要ではと思つてゐる。

## 出席 菅野委員長、井田、伊藤、行方、佐藤、澤田、橋本、猪熊、大内、奥村、高橋、辻本、森田、内田、小林、中村、白石、早川、山口、宮内、今井、出川、山下、岩田、萩原、小栗、藤川、立石、石原、尾崎、滝の各委員。

●

## 「調査報道の戦後史 1945-2025」

(12・9 9階会見場&amp;オンライン)

2026年予想アンケート問題10

出席 菅野委員長、井田、伊藤、行方、佐藤、澤田、橋本、猪熊、大内、奥村、高橋、辻本、森田、内田、小林、中村、白石、早川、山口、宮内、今井、出川、山下、岩田、萩原、小栗、藤川、立石、石原、尾崎、滝の各委員。

●

## 調査報道の軌跡記す

(12・9 9階会見場&amp;オンライン)

2026年予想アンケート問題10

出席 菅野委員長、井田、伊藤、行方、佐藤、澤田、橋本、猪熊、大内、奥村、高橋、辻本、森田、内田、小林、中村、白石、早川、山口、宮内、今井、出川、山下、岩田、萩原、小栗、藤川、立石、石原、尾崎、滝の各委員。

●

## 「調査報道の戦後史 1945-2025」

(12・9 9階会見場&amp;オンライン)

2026年予想アンケート問題10

出席 菅野委員長、井田、伊藤、行方、佐藤、澤田、橋本、猪熊、大内、奥村、高橋、辻本、森田、内田、小林、中村、白石、早川、山口、宮内、今井、出川、山下、岩田、萩原、小栗、藤川、立石、石原、尾崎、滝の各委員。

●

## 調査報道の軌跡記す

(12・9 9階会見場&amp;オンライン)

2026年予想アンケート問題10

出席 菅野委員長、井田、伊藤、行方、佐藤、澤田、橋本、猪熊、大内、奥村、高橋、辻本、森田、内田、小林、中村、白石、早川、山口、宮内、今井、出川、山下、岩田、萩原、小栗、藤川、立石、石原、尾崎、滝の各委員。

●

## 「調査報道の戦後史 1945-2025」

(12・9 9階会見場&amp;オンライン)

2026年予想アンケート問題10

出席 菅野委員長、井田、伊藤、行方、佐藤、澤田、橋本、猪熊、大内、奥村、高橋、辻本、森田、内田、小林、中村、白石、早川、山口、宮内、今井、出川、山下、岩田、萩原、小栗、藤川、立石、石原、尾崎、滝の各委員。

●

## 「調査報道の戦後史 1945-2025」

(12・9 9階会見場&amp;オンライン)

2026年予想アンケート問題10

出席 菅野委員長、井田、伊藤、行方、佐藤、澤田、橋本、猪熊、大内、奥村、高橋、辻本、森田、内田、小林、中村、白石、早川、山口、宮内、今井、出川、山下、岩田、萩原、小栗、藤川、立石、石原、尾崎、滝の各委員。

●

## 「調査報道の戦後史 1945-2025」

(12・9 9階会見場&amp;オンライン)

2026年予想アンケート問題10

出席 菅野委員長、井田、伊藤、行方、佐藤、澤田、橋本、猪熊、大内、奥村、高橋、辻本、森田、内田、小林、中村、白石、早川、山口、宮内、今井、出川、山下、岩田、萩原、小栗、藤川、立石、石原、尾崎、滝の各委員。

●

## 「調査報道の戦後史 1945-2025」

(12・9 9階会見場&amp;オンライン)

2026年予想アンケート問題10

出席 菅野委員長、井田、伊藤、行方、佐藤、澤田、橋本、猪熊、大内、奥村、高橋、辻本、森田、内田、小林、中村、白石、早川、山口、宮内、今井、出川、山下、岩田、萩原、小栗、藤川、立石、石原、尾崎、滝の各委員。

●

## 「調査報道の戦後史 1945-2025」

(12・9 9階会見場&amp;オンライン)

2026年予想アンケート問題10

出席 菅野委員長、井田、伊藤、行方、佐藤、澤田、橋本、猪熊、大内、奥村、高橋、辻本、森田、内田、小林、中村、白石、早川、山口、宮内、今井、出川、山下、岩田、萩原、小栗、藤川、立石、石原、尾崎、滝の各委員。

●

## 「調査報道の戦後史 1945-2025」

(12・9 9階会見場&amp;オンライン)

2026年予想アンケート問題10

出席 菅野委員長、井田、伊藤、行方、佐藤、澤田、橋本、猪熊、大内、奥村、高橋、辻本、森田、内田、小林、中村、白石、早川、山口、宮内、今井、出川、山下、岩田、萩原、小栗、藤川、立石、石原、尾崎、滝の各委員。

●

## 「調査報道の戦後史 1945-2025」

(12・9 9階会見場&amp;オンライン)

2026年予想アンケート問題10

出席 菅野委員長、井田、伊藤、行方、佐藤、澤田、橋本、猪熊、大内、奥村、高橋、辻本、森田、内田、小林、中村、白石、早川、山口、宮内、今井、出川、山下、岩田、萩原、小栗、藤川、立石、石原、尾崎、滝の各委員。

●

## 「調査報道の戦後史 1945-2025」

(12・9 9階会見場&amp;オンライン)

2026年予想アンケート問題10

出席 菅野委員長、井田、伊藤、行方、佐藤、澤田、橋本、猪熊、大内、奥村、高橋、辻本、森田、内田、小林、中村、白石、早川、山口、宮内、今井、出川、山下、岩田、萩原、小栗、藤川、立石、石原、尾崎、滝の各委員。

●

## 「調査報道の戦後史 1945-2025」

(12・9 9階会見場&amp;オンライン)

2026年予想アンケート問題10

出席 菅野委員長、井田、伊藤、行方、佐藤、澤田、橋本、猪熊、大内、奥村、高橋、辻本、森田、内田、小林、中村、白石、早川、山口、宮内、今井、出川、山下、岩田、萩原、小栗、藤川、立石、石原、尾崎、滝の各委員。

●

## 「調査報道の戦後史 1945-2025」

(12・9 9階会見場&amp;オンライン)

2026年予想アンケート問題10

出席 菅野委員長、井田、伊藤、行方、佐藤、澤田、橋本、猪熊、大内、奥村、高橋、辻本、森田、内田、小林、中村、白石、早川、山口、宮内、今井、出川、山下、岩田、萩原、小栗、藤川、立石、石原、尾崎、滝の各委員。

●

## 「調査報道の戦後史 1945-2025」

(12・9 9階会見場&amp;オンライン)

2026年予想アンケート問題10

出席 菅野委員長、井田、伊藤、行方、佐藤、澤田、橋本、猪熊、大内、奥村、高橋、辻本、森田、内田、小林、中村、白石、早川、山口、宮内、今井、出川、山下、岩田、萩原、小栗、藤川、立石、石原、尾崎、滝の各委員。

●

## 「調査報道の戦後史 1945-2025」

(12・9 9階会見場&amp;オンライン)

2026年予想アンケート問題10

出席 菅野委員長、井田、伊藤、行方、佐藤、澤田、橋本、猪熊、大内、奥村、高橋、辻本、森田、内田、小林、中村、白石、早川、山口、宮内、今井、出川、山下、岩田、萩原、小栗、藤川、立石、石原、尾崎、滝の各委員。

●

## 「調査報道の戦後史 1945-2025」

(12・9 9階会見場&amp;オンライン)

2026年予想アンケート問題10

出席 菅野委員長、井田、伊藤、行方、佐藤、澤田、橋本、猪熊、大内、奥村、高橋、辻本、森田、内田、小林、中村、白石、早川、山口、宮内、今井、出川、山下、岩田、萩原、小栗、藤川、立石、石原、尾崎、滝の各委員。

●

## 「調査報道の戦後史 1945-2025」

(12・9 9階会見場&amp;オンライン)

2026年予想アンケート問題10

出席 菅野委員長、井田、伊藤、行方、佐藤、澤田、橋本、猪熊、大内、奥村、高橋、辻本、森田、内田、小林、中村、白石、早川、山口、宮内、今井、出川、山下、岩田、萩原、小栗、藤川、立石、石原、尾崎、滝の各委員。

●

## 「調査報道の戦後史 1945-2025」

(12・9 9階会見場&amp;オンライン)

2026年予想アンケート問題10

出席 菅野委員長、井田、伊藤、行方、佐藤、澤田、橋本、猪熊、大内、奥村、高橋、辻本、森田、内田、小林、中村、白石、早川、山口、宮内、今井、出川、山下、岩田、萩原、小栗、藤川、立石、石原、尾崎、滝の各委員。

●

## 「調査報道の戦後史 1945-2025」

(12・9 9階会見場&amp;オンライン)

2026年予想アンケート問題10

出席 菅野委員長、井田、伊藤、行方、佐藤、澤田、橋本、猪熊、大内、奥村、高橋、辻本、森田、内田、小林、中村、白石、早川、山口、宮内、今井、出川、山下、岩田、萩原、小栗、藤川、立石、石原、尾崎、滝の各委員。

●

## 「調査報道の戦後史 1945-2025」

(12・9 9階会見場&amp;オンライン)

2026年予想アンケート問題10

出席 菅野委員長、井田、伊藤、行方、佐藤、澤田、橋本、猪熊、大内、奥村、高橋、辻本、森田、内田、小林、中村、白石、早川、山口、宮内、今井、出川、山下、岩田、萩原、小栗、藤川、立石、石原、尾崎、滝の各委員。

●

## 「調査報道の戦後史 1945-2025」

(12・9 9階会見場&amp;オンライン)

2026年予想アンケート問題10

出席 菅野委員長、井田、伊藤、行方、佐藤、澤田、橋本、猪熊、大内、奥村、高橋、辻本、森田、内田、小林、中村、白石、早川、山口、宮内、今井、出川、山下、岩田、萩原、小栗、藤川、立石、石原、尾崎、滝の各委員。

●

## 「調査報道の戦後史 1945-2025」

(12・9 9階会見場&amp;オンライン)

2026年予想アンケート問題10

出席 菅野委員長、井田、伊藤、行方、佐藤、澤田、橋本、猪熊、大内、奥村、高橋、辻本、森田、内田、小林、中村、白石、早川、山口、宮内、今井、出川、山下、岩田、萩原、小栗、藤川、立石、石原、尾崎、滝の各委員。

●

## 「調査報道の戦後史 1945-2025」

(12・9 9階会見場&amp;オンライン)

2026年予想アンケート問題10

出席 菅野委員長、井田、伊藤、行方、佐藤、澤田、橋本、猪熊、大内、奥村、高橋、辻本、森田、内田、小林、中村、白石、早川、山口、宮内、今井、出川、山下、岩田、萩原、小栗、藤川、立石、石原、尾崎、滝の各委員。

●

## 「調査報道の戦後史 1945-2025」

(12・9 9階会見場&amp;オンライン)

2026年予想アンケート問題10

出席 菅野委員長、井田、伊藤、行方、佐藤、澤田、橋本、猪熊、大内、奥村、高橋、辻本、森田、内田、小林、中村、白石、早川、山口、宮内、今井、出川、山下、岩田、萩原、小栗、藤川、立石、石原、尾崎、滝の各委員。

●

## 「調査報道の戦後史 1945-2025」

(12・9 9階会見場&amp;オンライン)

2026年予想アンケート問題10

出席 菅野委員長、井田、伊藤、行方、佐藤、澤田、橋本、猪熊、大内、奥村、高橋、辻本、森田、内田、小林、中村、白石、早川、山口、宮内、今井、出川、山下、岩田、萩原、小栗、藤川、立石、石原、尾崎、滝の各委員。

●

## 「調査報道の戦後史 1945-2025」

(12・9 9階会見場&amp;オンライン)

2026年予想アンケート問題10

出席 菅野委員長、井田、伊藤、行方、佐藤、澤田、橋本、猪熊、大内、奥村、高橋、辻本、森田、内田、小林、中村、白石、早川、山口、宮内、今井、出川、山下、岩田、萩原、小栗、藤川、立石、石原、尾崎、滝の各委員。

●

## 「調査報道の戦後史 1945-2025」

(12・9 9階会見場&amp;オンライン)

2026年予想アンケート問題10

出席 菅野委員長、井田、伊藤、行方、佐藤、澤田、橋本、猪熊、大内、奥村、高橋、辻本、森田、内田、小林、中村、白石、早川、山口、宮内、今井、出川、山下、岩田、萩原、小栗、藤川、立石、石原、尾崎、滝の各委員。

●

## 「調査報道の戦後史 1945-2025」

(12・9 9階会見場&amp;オンライン)

2026年予想アンケート問題10

出席 菅野委員長、井田、伊藤、行方、佐藤、澤田、橋本、猪熊、大内、奥村、高橋、辻本、森田、内田、小林、中村、白石、早川、山口、宮内、今井、出川、山下、岩田、萩原、小栗、藤川、立石、石原、尾崎、滝の各委員。

●

## 「調査報道の戦後史 1945-2025」

(12・9 9階会見場&amp;オンライン)

2026年予想アンケート問題10

出席 菅野委員長、井田、伊藤、行方、佐藤、澤田、橋本、猪熊、大内、奥村、高橋、辻本、森田、内田、小林、中村、白石、早川、山口、宮内、今井、出川、山下、岩田、萩原、小栗、藤川、立石、石原、尾崎、滝の各委員。

●

## 「調査報道の戦後史 1945-2025」

(12・9 9階会見場&amp;オンライン)

2026年予想アンケート問題10

出席 菅野委員長、井田、伊藤、行方、佐藤、澤田、橋本、猪熊、大内、奥村、高橋、辻本、森田、内田、小林、中村、白石、早川、山口、宮内、今井、出川、山下、岩田、萩原、小栗、藤川、立石、石原、尾崎、滝の各委員。

●

## 「調査報道の戦後史 1945-2025」

(12・9 9階会見場&amp;オンライン)

2026年予想アンケート問題10

出席 菅野委員長、井田

## レストラン\*価格は全て税込みです

予約電話 和食 3503-2723 洋食 3503-2766・2731

## 和食 一月お献立 (1/30まで)

先付前菜：数の子 亀甲漬、市田柿とトマト ナツツのチーズ寄せ、サーモン手毬寿司など 馬上杯：もずく酢 紅白ちょろぎ 梅盛り：雑煮 梅 小松菜 鶏など 造り：鮪、鯛の二種盛り 焼き物：牛ヒレおろしポン酢など 炊き合わせ：小カブふろふき煮 食事：せいろそば デザート：フルーツ寒天 (5,500円) (板長：薫田勝)  
※仕入れの都合で内容が変わることがあります。

## 洋食 季節のおすすめコース (1/31まで)

小海老とクスクスのサラダ、ほうれん草のポタージュ、牛フィレ肉のグリル 西洋わさび風味ソース、苺のメリバ、コーヒーまたは紅茶、パンとバター (4,400円)。ランチ、ディナーともに9階レストランでもご提供します。 (シェフ：佐藤和治)

## 和食、ラウンジ飲食価格改定のお知らせ

昨今の物価高騰の影響により、1月5日から9階の和食レストラン、ラウンジの一部メニューの価格を改定しました(下記参照)。ご理解ください。

- ・本日のおすすめ料理 (1,320円→1,430円)
  - ・天ぷら御膳 (1,650円→1,870円)
  - ・うどん・そば (825円→880円)
  - ・アイスクリーム類 (330円→440円)
  - ・ジュース、ウーロン茶などソフトドリンク (264円→330円)
  - ・コーヒー、紅茶 (297円→330円)
- 20枚つづりの喫茶券 (4,224円、1杯当たり約211円)は料金据え置きのため、こちらの購入がお得です。ラウンジのレジでお求めいただけます。この機会にご利用ください。

## 今後の行事予定 (12/26現在)

19月	13:00 ~ 14:30 10階ホール 「2026年経済展望－激動の世界と日本を読む」① 中空麻奈 BNPパリバ証券グローバルマーケット統括本部副会長
23㊂	18:00 ~ 19:30 10階ホール 新年互礼会員懇親会 会費3,000円
26㊂	14:00 ~ 15:30 10階ホール 「2026年経済展望－激動の世界と日本を読む」② 柯隆 東京財團常勤研究員
29㊂	14:30 ~ 16:00 9階会見場 「人口減少時代を生きる」⑥ 阿部守一 全国知事会会長
30㊂	13:00 ~ 14:30 10階ホール 「2026年経済展望－激動の世界と日本を読む」③ 永濱利廣 第一生命経済研究所首席エコノミスト
2月 3㊂	13:00 ~ 14:30 9階会見場 「人口減少時代を生きる」⑦ 小井土彰宏 亜細亜大学教授

## クラブの電話 ダイヤルイン

- ・和食レストラン(9階) ..... ☎ 3503-2723
- ・洋食レストラン(10階) ..... ☎ 3503-2766
- ・貸室予約、宴会打ち合わせ ..... ☎ 3503-2724
- ・受付 ..... ☎ 3503-2721
- ・会員事務 ..... ☎ 3503-2727
- ・経理 ..... ☎ 3503-2728
- ・クラブ行事への申し込み ..... ☎ 3503-2722
- ・会見申し込みアドレス - kaiken@jnpc.or.jp

## 会員現況

- ・法人会員: 121社
- ・基本会員: 696人
- ・個人会員: 962人
- ・法人・個人賛助会員: 54社・114人
- ・特別賛助会員: 97人
- ・名誉・功労会員: 11人
- ・学生会員: 78人



## 新しい個人D会員

■■■ しばたともあき 柴田 友明



1993年共同通信社入社。警視庁、防衛省、都庁など担当。社会部デスク、大分支局長、福岡支局編集部長、甲府支局長、名古屋支局次長などを経て、2025年9月退社。

還暦過ぎても世の中、知らないことが多い。報道分野に接しながら謙虚に時代の推移を見据えたい。勉強させていただきます。よろしくお願いします。



個人D会員入会キャンペーンをやっています。詳細は事務局・杉本(03-3503-2727)まで。

## 日本記者クラブ賞・特別賞の推薦を 1/30まで

応募締め切りが1月30日(金)に迫ってきました。積極的な推薦をお願いします。

## 【日本記者クラブ賞】

取材、報道、評論活動などを通じてジャーナリストとして顕著な業績を挙げ、ジャーナリズムの信用と権威を高めた個人を顕彰します。会員または法人会員社に属する方々が対象です。クラブ会員であれば推薦できます。

## 【日本記者クラブ賞特別賞】

原則として会員以外のジャーナリズム活動を顕彰します。会員社の取材班・番組班などチームとしての業績も対象となります。クラブ会員だけでなく日本新聞協会あるいは日本民間放送連盟の加盟社に属する方であればどなたでも推薦できます。

両賞とも、日本記者クラブのウェブサイトに掲載している応募フォームに必要事項を入力のうえ、参考資料を事務局に提出してください。<https://www.jnpc.or.jp/award2026>

詳細は事務局の杉本(03-3503-2727)までお問い合わせください。

## 予想アンケート、ご投票ください

「2026年予想アンケート」の投票用紙を今月号に同封しています。QRコードからネットで投票してください。また、ファックス(03-3503-2721)か郵送でも投票できます。締め切りは1月30日(金)です。



1月23日(金)18時から開催する新年互礼会員懇親会の会場にも投票箱を設けます。

## 事務局職員、退職のお知らせ

近藤福人が昨年12月31日付で退職しました。近藤は2024年7月に入社。約1年半、企画を担当しました。

## 会報委員会

委員長=榎原 智  
委員=飯山 雅史 勝田 洋人 鴨下ひろみ  
佐藤 圭一 高橋 清子 田中 成之  
辻 篤子 成田 浩二 堀口由多可  
森 一徳

(事務局:西村志織 本庄五月)

☎ 03-3503-2729 FAX 03-3503-7271

# 写真回廊

撮影：鴨志田 拓海（産経新聞社写真報道局）



古都ルアンプラバンに向かう列車に乗車される天皇、皇后両陛下の長女、敬宮愛子さま＝2025年11月20日、ラオス・ビエンチャン

## 一带一路、メコンのほとり

あれ、と思った。そうか、と気づき、はあ、とため息が出て。ラオスに高速鉄道が走っている。中国の「一带一路」は、ここまで到達したのか。

ラオス中国鉄道は、中国の支援で4年前に開業した。2年後には、中国雲南省の昆明からビエンチャンまで、国際列車も走らせている。それまで隣国タイから乗り入れるわずかな線路しかなかった国に、いきなり時速160キロの列車が走ることになった。中国区間が613キロ。ラオス区間は422キロで、天皇、皇后両陛下の長女愛子さまが向かわれた古都ルアンプラバンは、その中間からやや中国国境よりにある。ビエンチャン郊外にある駅には、ラオ語の駅名より大きく、中国語で「万象（ビエンチャン）」と表示されている。総工費約60億ドルの7割は中国の負担で、ラオスが負担する残り3割の多くも中国からの融資だ。スリランカが陥ったような中国による「債務の罠」に落ちないか、心配する声もある。

日本の本州ほどの国土に約760万人が住む。東南アジアで、ただひとつ海に面していない。山がちで、一番の輸出品は水力発電による電力という静かな仏教国だ。1997年に東南アジア諸国連合（ASEAN）に加盟し、2004年に初めて首脳会議を主催した。

私はバンコクに駐在していて、取材準備のためにビエンチャンに何度も出張した。高いビルはほとんどなく、自動車も少ない。ゆったりとした時間が流れていた。メコン川のほとりで、川面を赤く染める夕陽を見ながら飲むビア・ラオは格別だった。そのころ川岸にラオス初の高層ホテルを、中国企業が中国人労働者を引きつれて突貫工事で建設していた。

ラオス人の生き方は、ラオ語で「サバイサバイ（のんびり、気楽に）」。「万象駅」から繰り込んでくる中国人のペースに、かき回されてほしくないものだ。（朝日新聞社出身 真田 正明）